

I P M実践指標モデル (キャベツ)

分類	管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄			
					昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	ほ場内、周辺の除草 (必)	病害虫の発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草を除去する。	1				
		健全種子の選定	消毒済の種子または種子消毒を行って使用する。	1				
		健全苗の定植 (必)	定植苗は生育がよく病害虫の発生加害のない健全な苗を使用する。	1				
		施肥管理	5年に一度は土壌診断を受け、土壌pH等を矯正し、適切な施肥を行う。	1				
		ほ場の選択	水はけの良いほ場を選択し、低湿地での作付けは避ける。	1				
判断	タイミングの判断	病害虫発生予察情報の確認 (必)	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入力し確認する。	1				
		気象情報の把握	気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除に心がける。	1				
		病害虫の観察	ほ場での病害虫の発生状況を確認し、防除に活かす。	1				
		トラップの設置	黄色粘着トラップ、フェロモントラップ等によりほ場の害虫の発生動態を確認する。	1				
防除	耕種的防除	連作の回避、輪作	萎黄病や根こぶ病などの連作障害を予防するため、アブラナ科以外の作物と輪作を行う。	1				
		発病株・残さの処理 (必)	菌核病等の発病株は見つけ次第、早期に抜き取ってほ場外に出し、適切に処分する。残さも同様に処分する。	1				
		抵抗性品種の利用	病害の発生が問題な場合は抵抗性品種を用いる。	1				
	生物的防除	性フェロモン剤や生物農薬の利用	害虫	適用のある害虫に対して、性フェロモン剤の利用や、B T (バチルス・チューリゲンシス) 剤、ホーベリア・バシアーナ剤などの生物農薬を利用する。	1			
			病害	適用のある病害に対して、シュードモナス・ロデシア剤などの生物農薬を利用する。菌核病に対してコニオチリウム・ミニタンス菌製剤をすき込み時~定植前に処理する。	1			
	物理的防除	防虫ネットの設置 (必)		育苗施設や育苗ほ場は、防虫ネットや寒冷紗で被覆し、害虫の飛来や産卵を防ぐ。	1			
		土壌病害・センチュウ対策		太陽熱消毒、熱水土壌消毒、散水蒸気消毒などを行う。	1			
	化学的防除	農薬の使用全般 (共通) (必)		十分な薬効が得られる範囲で、最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定する (薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する)。	1			
		粒剤の使用		定植期に農薬を施用し、少量の薬剤で生育初期の病害虫の発生を有効に抑制する。	1			
		散布方法		農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。防除は無~弱風時を選んで行う。	1			
		ローテーション防除		農薬の使用にあたっては、農薬工業会が提供している作用機作による農薬の種類 (IRAC、FRAC) を確認し、特定の成分のみを繰り返し使用しない。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は使用しない。	1			
		薬剤の選択		土着の天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1			
		散布後の処理		散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川などに流入しないようにする。	1			
その他	作業日誌 (必)		各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、使用した農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のI P Mに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1				
	研修会等への参加		県や農業協同組合が開催するI P M研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業者等へ周知し、情報共有する。	1				
				合計点数				
				評価結果				

* (必) と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。